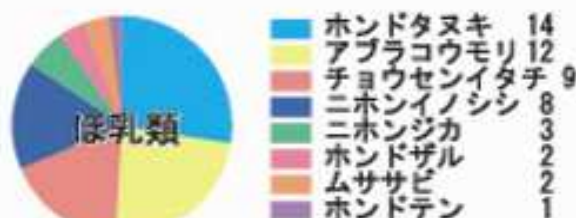
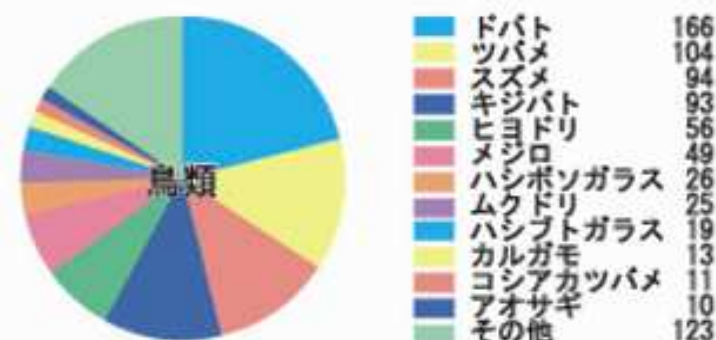


野生鳥獣救護センターだより

京都市域において、京都府と京都市が協力して野生鳥獣救護事業を実施しています。動物園内の救護センターでは、病気や怪我で運び込まれた鳥類とほ乳類について、治療を行っています。回復した動物は京都府の職員によって適切な場所に放されます。年間約800~1000点の動物たちが届けられ、約4割が自然に帰っていきます。

■救護された動物■

平成16年度に野生鳥獣救護センターに届けられた動物は、鳥類が54種789点(94%)、ほ乳類が8種51点(6%)で、計840点でした。例年通り鳥類ではドバト、ツバメ、スズメ、キジバトが、哺乳類ではタヌキ、アブラコウモリなど人の近くで暮らしている動物が多く持ち込まれています。



数値は届けられた実数です

その他の鳥たち

ユリカモメ、ホンドフクロウ、オオルリ、オオミズナギドリ、カワラヒワ、ササゴイ、コサギ、トビ、アカハライカル、メボソムシクイ、シジュウカラ、カウ、オオタカ、ゴイサギ、マガモ、ハイタカ、コチドリ、ケリ、ヤマシギ、アオバト、ヨタカ、セグロセキレイ、ジョウビタキ、オオヨシキリ、エナガ、ハシボソミズナギドリ、ミソゴイ、オナガガモ、ホシハジロ、ホオジロガモ、ミサゴ、チョウゲンボウ、ウズラ、オオバン、アジサシ、ホトトギス、ツツドリ、アマツバメ、ヒメアマツバメ、カワセミ、アカショウビン、コゲラ、ツグミ、ウグイス、ヒガラ、カケス

■救護された原因■

救護される原因で最も多いのは事故などによる外傷で、291件(35%)でした。鳥では翼の骨折が多く見られます。

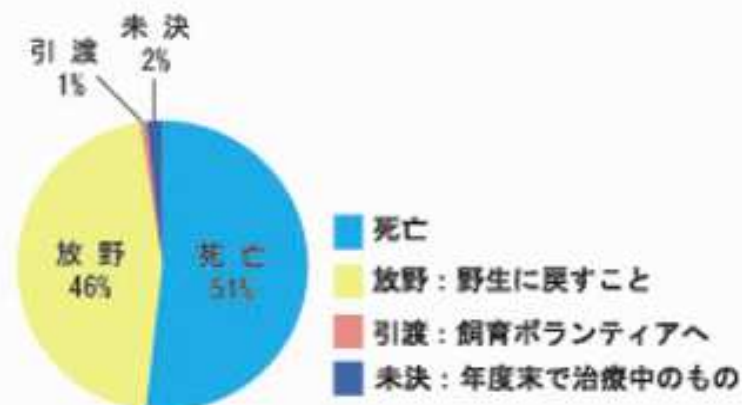
また、ねずみ取り用の粘着シートに絡まって持ち込まれるケースも15件ありました。

粘着剤を取り除くには、サラダ油などの食用油をういます。さらに中性洗剤とお湯で油を落とすのですが、羽根を痛めないよう、時間をかけ過ぎないように作業を進めます。

この作業は鳥にとって大きな負担となります。粘着シートを使用する際には、鳥が来ない場所を選ぶなどに注意が必要です。

■動物たちのその後■

昨年度届けられた840点の動物のうち、384点(46%)を野生に戻しました。



■飼育ボランティア募集■

救護された中には、翼を失い空を飛ぶことができない鳥や交通事故の後遺症でうまく歩けないタヌキなど元気にはなったものの自然に返せない動物がいます。そこで、京都府の一般の団体や府民の方で飼育していただけるボランティアの方を探しています。飼育ボランティアの対象となる動物については動物園にお問い合わせください。

■問い合わせ先■

京都府農林水産部森林保全課野生動物対策室
京都市産業観光局農林部農業振興整備課
京都市動物園

電話 075-414-5026
電話 075-222-3352
電話 075-771-0210

